

# U.S. Indicators

発表日: 2023年11月27日(月)

## 米国 11月のPMIは民間需要の小幅拡大を示す

～製造業が縮小に転じた一方、サービス業は小幅加速～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

23年11月のS&Pグローバル米国総合購買担当者指数 (PMI) は、50.7 (10月 50.7) と拡大縮小の分岐点である50を9カ月連続で上回った。また、前月比で横ばいとなり、市場予想の50.4 (筆者予想 50.8) を上回った。11月総合PMIは、同統計調査対象の企業活動の緩やかな拡大、民間需要の小幅拡大を示した。

製造業は、世界経済の減速、在庫調整による新規受注、生産の拡大ペース鈍化を受け、49.4 (前月 50.0) と前月比0.6%ポイント低下し、縮小に転じた。一方、サービス業は、50.8 (前月 50.6) と前月比0.2%ポイント上昇し、内外での人の移動の活発化による需要の強まりを背景に10カ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回った。

新規受注では、製造業が50.0に低下した一方、サービス業が50を上回ったことから、全体でも50.4 (前月 49.0) を上回り、拡大に転じた。総合雇用は49.7 (前月 51.3) と低下し、雇用の縮小を示した。製造業が需要の鈍化で縮小を示す49.0 (前月 49.0) にとどまったほか、サービス業がコスト削減のために49.8 (前月 51.7) と20年6月以降で初めて50を下回った。

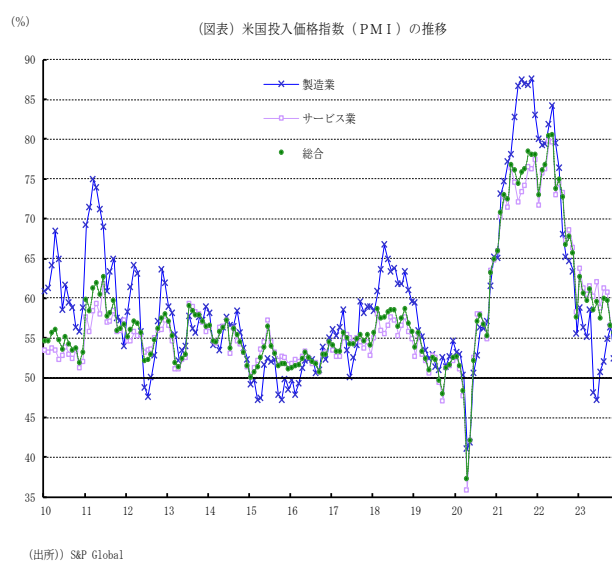
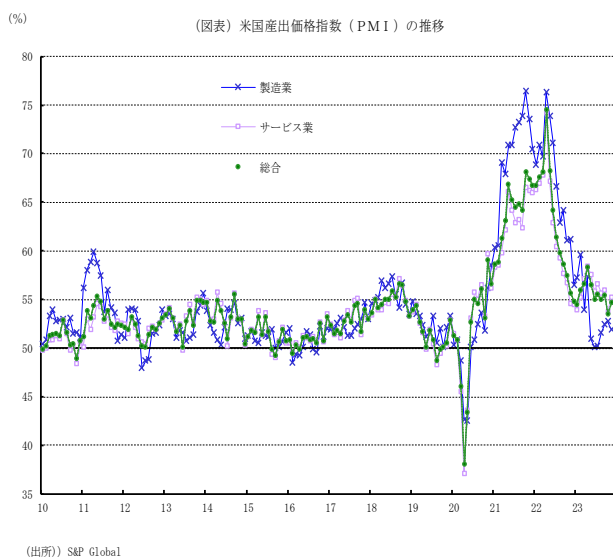
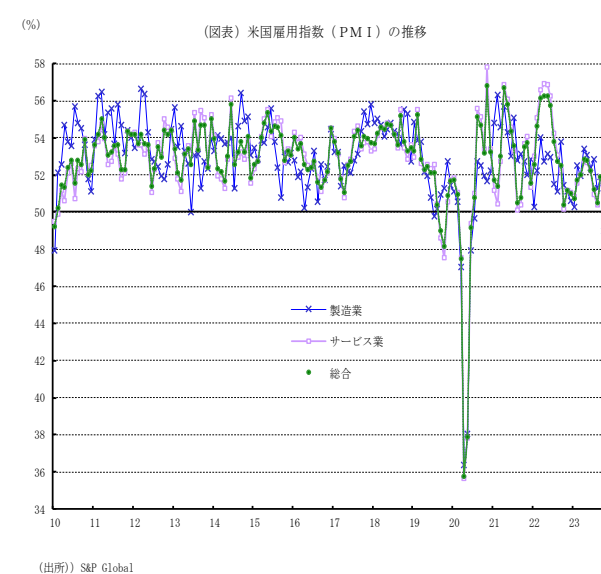
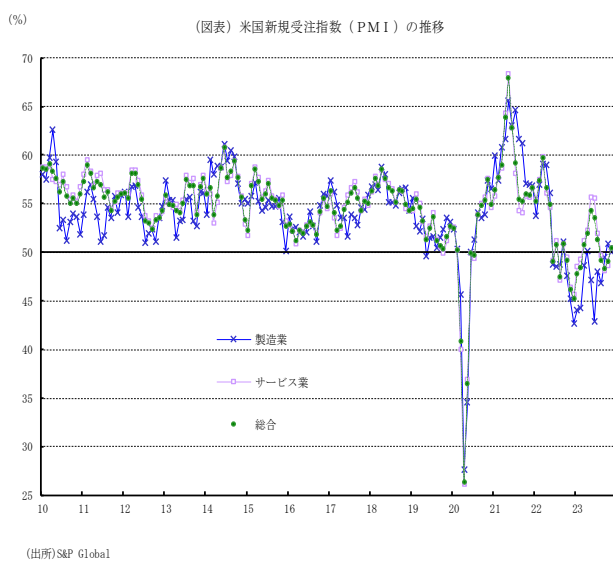
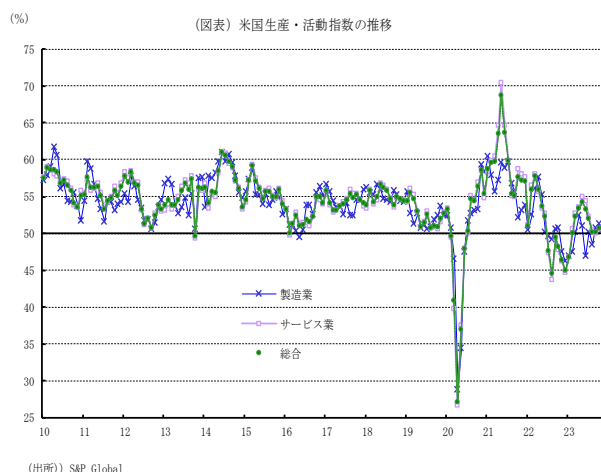
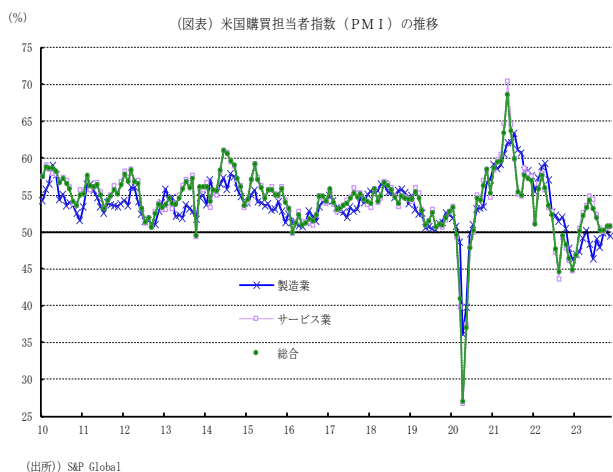
インフレ関連では、投入価格指数が低下したが、産出価格指数が上昇しており、インフレの下げ渋りが示唆された。製造業では、投入価格指数が52.5 (前月 56.4)、産出価格指数が51.9 (前月 52.8) とともに低下し、消費者段階での財価格の低下を示している。一方、サービス業では、投入価格指数が56.3 (前月 57.4) と低下したが高い水準にとどまっているうえ、産出価格指数が55.2 (前月 53.7) と上昇し、サービス価格の上昇を示した。

製造業では、雇用が49.01 (前月 48.96) と小幅上昇した一方、新規受注が50.0 (前月 50.9)、生産が50.4 (前月 51.2)、在庫が46.4 (前月 47.2) と低下した。寄与度では、雇用が前月比+0.01%ポイントの押し上げ寄与となった一方、新規受注が前月比▲0.25%ポイント、生産が前月比▲0.20%ポイント、在庫が前月比▲0.08%ポイント、入荷遅延が前月比▲0.05%ポイントの押し下げ寄与となった。

サービス業では、活動指数が50.8 (前月 50.6) と上昇した。信用状況の引き締め、金利上昇にもかかわらず、観光・余暇需要の強まり等を背景にサービス業が小幅加速した。また、新規受注が50.5 (前月 48.7) と50台に回復し、需要の拡大を示した。さらに、「将来の活動指数」が64.7 (前月 66.7) と低下したが高い水準を維持していることから、サービス関連企業は先行きに対して楽観的な見方を続けている。

総合PMIは、10-12月期 (10、11月平均) で50.7と7-9月期の50.8から小幅低下しており、米民間需要の拡大ペース鈍化を示している。同期の製造業が49.7 (7-9月期 48.9、4-6月期 48.3) と上昇した一方、サービス業は50.7と7-9月期の50.9を下回った。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。